

第2回電気技術顕彰「でんきの礎^{いしづえ}」として5件を顕彰

～ 7月17日以降会長等が顕彰先を訪問して表彰 ～

平成21年7月10日
社団法人 電気学会
会長 松瀬 貞規

電気学会は昨年（平成20年）創立120周年を迎えましたが、その記念事業の一環として「社会生活に大きく貢献した電気技術」の功績を称え、その価値を多くの人に知ってもらい、電気技術への関心を持ってもらうことを目的に、技術史的価値、社会的価値、あるいは学術的教育的価値のいずれかを有する約25年以上経過した電気技術の業績を「でんきの礎^{いしづえ}*1」（One Step on Electro-Technology）として顕彰^{*2}することにいたしました。

（*1：カテゴリーとして『モノ』『場所』『こと』『人』の4つを設定 *2：「顕彰」とは「隠れた功績・善行などを称え、広く世間に知らせること」）

第2回目の今回は「新幹線鉄道システム」（『モノ』ではなく『こと』として）や「電気釜」などの5件8顕彰先を選定し、去る5月27日開催の第97回通常総会にて発表いたしました。詳しい顕彰理由等は次頁に記載のとおりです。今後、各顕彰先を会長等学会役員がお訪ねして、顕彰状と記念品をお渡しする予定です。

若者の理工系離れが進む中「でんきの礎」が電気技術の素晴らしさ、面白さを顕在化させ、それによって若い人たちの電気技術への関心が高まること、また、今後の電気技術の発展への寄与にもつながることも期待されることから「でんきの礎」の選定は当学会が果たすべき社会的責任でもあると考えております。

引き続き当学会の重要事業のひとつとして「でんきの礎」の選定を行っていく所存ですので、今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。

なお、第3回につきましては現在候補の推薦を公募中（7月末締切）、平成22年3月の全国大会（明治大学駿河台校舎）で顕彰式を行う予定です。

第2回「でんきの礎」顕彰名称および訪問先等

（顕彰理由等は次頁に記載、顕彰名称50音順）

顕彰名称	訪問日	顕彰先（訪問先）
岡部金治郎と分割陽極マグネトロン	8月21日	東北大学 電気通信研究所
新幹線鉄道システム ～高速鉄道の先駆的研究成果～	8月3日	(財)鉄道総合技術研究所
電気釜	9月28日	(株)東芝（東芝ホームアプライアンス）
	8月3日	(株)サンコーシヤ
電子顕微鏡HU-2型（透過型電子顕微鏡）	7月17日	(株)日立ハイテクノロジーズ 《注》
	7月17日	(社)日本顕微鏡学会
電力用酸化亜鉛形ギャップレス避雷器	8月27日	MSA（株）
	未定	パナソニックエレクトロニックデバイス（株）

《注》茨城大学で開催の電気学会東京支部茨城支所講演会「ナノ材料の評価に有効な超高分解能走査電子顕微鏡の機能と応用」の際に授与予定

記念品として授与する

クリスタルトロフィー（右）

青銅プレート（下）



本件に関するお問合せ先

社団法人 電気学会 総務企画課 顕彰担当

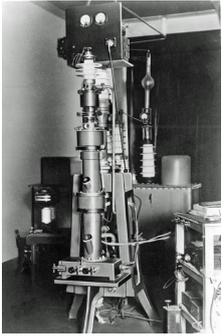
e-mail jimkyoku@iee.or.jp

電話 03-3221-7312

以上

第 2 回 電気技術顕彰「でんきの礎」

社団法人 電気学会

顕彰名称 / 顕彰先 / 顕彰理由	カテゴリー	写 真
<p>岡部金治郎と分割陽極マグネトロン</p> <p>東北大学電気通信研究所</p> <p>岡部金治郎は、1927 年東北帝国大学（現・東北大学）在職中に、効率よく安定したマイクロ波（波長 3cm, 周波数 10GHz）を発振することが可能な分割陽極マグネトロンを世界で初めて発明した。この技術は、現在でも警戒レーダや電子レンジなどに広く使用されている。その後も岡部は、電磁波工学の発展に寄与し、日本の電子工学の先駆者とされている。</p>	モノ/人	
<p>新幹線鉄道システム～高速鉄道の先駆的研究成果～</p> <p>(財) 鉄道総合技術研究所</p> <p>日本国有鉄道 鉄道技術研究所の高速鉄道に関する長期の基礎研究、昭和 32 年世に発した銀座ヤマハホール講演会「超特急、東京～大阪 3 時間運転の可能性」、昭和 37 年からのモデル線高速走行試験に至る実証研究や開発の取り組みは、新幹線鉄道システム実現の技術的基礎となり、その先駆的研究成果は極めて高い技術的価値をもつ。</p>	こと	
<p>電気釜</p> <p>(株) 東芝, (株) サンコーシヤ</p> <p>日本人の主食であるご飯(米)を釜で炊くという仕事は掃除, 洗濯とともに主婦の家事労働の一つであり, 経験に基づくノウハウにより, そのでき栄えは大きく左右された。タイムスイッチとの併用で, 希望の時間にご飯が炊ける自動式電気釜の出現は, 炊飯を単に自動化しただけでなく, 主婦の家事労働にかかる時間を大幅に軽減し, 日本人の生活様式を大きく変えた。</p>	モノ	
<p>電子顕微鏡 H U - 2 型 (透過型電子顕微鏡)</p> <p>(株) 日立ハイテクノロジーズ, (社) 日本顕微鏡学会</p> <p>日本の電子顕微鏡は 1939 年に産学官連携の形で開発が始まり, 戦後日本のお家芸と言われるまでに発展した。学術面でもナノテクノロジー, バイオテクノロジー, 量子物理などの幅広い分野で世界をリードする研究が生まれた。産学連携の先駆的なモデルであり, 日本の先端技術開発に貢献した。</p>	モノ/こと	
<p>電力用酸化亜鉛形ギャップレス避雷器</p> <p>MSA (株) (当時(株)明電舎), パナソニックエレクトロニックデバイス (株)</p> <p>電力用酸化亜鉛形避雷器の開発によって, 落雷などにより発生する非常に大きな電圧を大地へ逃がし電力機器を確実に守れるようになり, 停電事故の未然防止に大きく貢献している。また, 変電所の機器の小型化が可能となり, 大きな経済的効果をもたらしている。この画期的な国産技術は国際規格にも採用され, 現在, 世界の電力用避雷器の主流になっている。</p>	モノ	

(顕彰名称 50 音順)